

図 9.6② 遠心性環状紅斑 (erythema annulare centrifugum)

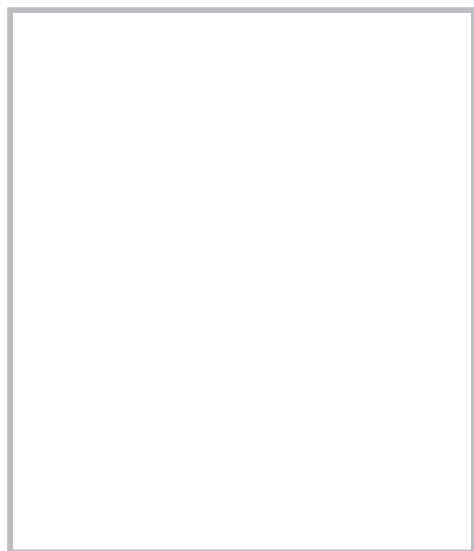


図 9.7 匍行性迂回状紅斑 (erythema gyratum repens)

デルマドローム
(dermadrome, skin manifestations
of internal disorders)

MEMO

～数か月で軽度の色素沈着を残して治癒する。掻痒などの自覚症状は通常なく、年余にわたって再発を繰り返すことも珍しくない。

病因

原因不明。一部の症例では慢性感染病巣（扁桃炎、^{うし}齲歯など）や内臓悪性腫瘍が関与することもある。

病理所見

真皮全層の血管周囲に、coat-sleeve 状と表現される密なりンパ球細胞浸潤を認める。

治療

ステロイド外用や抗ヒスタミン薬内服を行う。原因疾患が推定できるときは、その治療を行う。

2. 匍行性迂回状紅斑 erythema gyratum repens

体幹および四肢に生じる規則正しい縞模様～木目状の環状紅斑で、急速に広がり痒みが強い（図 9.7）。80%以上の症例で肺癌などの内臓悪性腫瘍が発見されるが、他の疾患（SLE や乾癬など）、あるいは基礎疾患なく生じることもある。内臓悪性腫瘍の治療により速やかに消退する。

3. 壊死性遊走性紅斑 necrolytic migratory erythema

グルカゴノーマ（グルカゴン産生膵内分泌腫瘍）に伴う皮膚症状。辺縁に水疱、びらん、^{かひ}痂皮や膿疱を伴い、中央に色素沈着を残して環状または地図状に拡大する。数週間の経過で増悪と軽快を繰り返す。殿部、下肢、顔面に好発し、亜鉛欠乏症候群（17章 p.323 参照）に類似することがある。舌炎や口角炎を伴うことも多く、皮疹と同様の機序で生じるとされる。

4. リウマチ性環状紅斑 erythema annulare rheumaticum

同義語：erythema marginatum (rheumatica)

症状・病因

レンサ球菌感染症であるリウマチ熱（rheumatic fever）の初期に生じる環状紅斑で、約 5～30%の症例で出現する。主